



横森 薫 (よこもり かおる) 緑が丘小 2年生

作品名:しっばいのゆうき 「しっばいにかんぱい」を読んで

図 書:しっばいにかんぱい

六月にミャンマーからみどりがおか小学校にてん校してきました。さいしょはすぐどきどきしました。新しい生活がちょっとだけむずかしかったです。まい日しっばいばかりです。そのときこの本をお母さんからプレゼントとしてもらいました。あけてみると、楽しくてどんどん読みました。

かなちゃんという子がバトンをしっばいして、ちょっとかわいそうだと思いました。そしたらおじいちゃんやみんなが出てきて、つぎつぎにしっばいを話してくれました。よこはまのおばちゃんは、ぐうぜん友だちにであってたいせつなケーキをトラックにおいたまま、つい友だちとおしゃべりにむちゅうになったらトラックが行ってしまいました。でも、さいごにうんてんしゅさんがお店にとどけてくれて、おばちゃんはほっとしました。こんなやさしい人がいるなんて、すごいと思いました。

また、生とを立たせたままのおじいちゃんがおうちに帰っちゃって、立たせたままを思いだして、じてんしゃでかけつけたら、友だちの男の子が立ってくれました。さいしょに立たせた子の名まえは太一くんて小さい弟のめんどうをみなきゃいけないので、かわりにおさむくんが立ってあげていました。やさしいなあと思いました。おじいちゃんは「すまん、すまん、ごめんよ」と言って、じてんしゃのうしろにのせておくってくれました。

このように、しっばいしてもさいごには、いいことがおこったりします。そして、おとなだってしっばいはあるんです。

じつは、わたしもいろんなしっばいをします。みどりがおかにきたさいしょの日、くつをはいたまま学校に入ろうとしました。きょうか書やふでばこを、もって帰るのをわすれてしまいます。みんなとおなじようにできなくて、かなしくなってしまう。

ミャンマーの学校では、いろんな国の友だちがいてみんなちがったので、みんなその国のことばがわからないので、一つのえい語で話して、わたしはりかいてきました。みんなのちがいをわかろうとしていました。そのころを思いだして、しっばいばかりの今のわたしが、さみしくなります。

わたしは、この本を読んで、あんしんしました。みどりがおかも、すぐくたのしいです。いろんな人がたすけてくれます。しっばいしても、なんとかなると思いま

した。だからいろんなことにチャレンジして、たのしく学校に行きたいです。